



半 春の風物詩「瀬戸川の鯉の引越し」 年ぶりに鯉が瀬戸川へ

4月5日(日) 古川町 瀬戸川

古川の春の風物詩「瀬戸川の鯉の引越し」作業が行われ、元気に泳ぐ鯉の姿が帰ってきました。

この引越し作業は、昨年11月に越冬のため瀬戸川から増島城跡の天神池に引っ越した鯉を、瀬戸川に戻す恒例の作業で、地域の高校生などボランティアや観光協会、市職員ら約20人が参加しました。

この日は約1000匹の鯉が軽トラック3台、約30往復で運ばれ、瀬戸川へ放流されました。

主催者である市観光協会の池田孝吉会長は「新型コロナウイルス感染拡大で大変な時期。元気に引越す鯉の姿を全国へお届けし、癒したい」と話しました。



鯉を瀬戸川に放流する様子

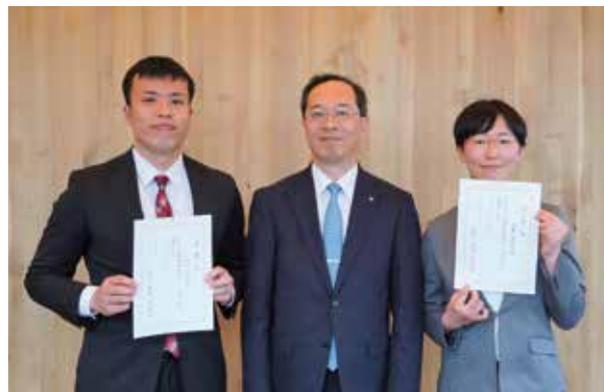
地 地域おこし協力隊委嘱状交付式 地域資源の活用に取り組む

4月1日(水) 市役所

市で新たに活動する地域おこし協力隊員の及川幹さんと加藤真澄さんの委嘱状交付式が市役所で行われました。

及川さんは飛騨市広葉樹活用コンシェルジュとして、素材生産やものづくりの関係者らと連携して広葉樹材の販路拡大や需給のマッチングなどを手掛けます。加藤さんは神岡町の山之村地区で、地域資源を活用した製品の開発、生産加工、販売や集落維持の支援などを行います。

二人に委嘱状を手渡した都竹市長は「任期中には好きなことをどんどん提案してほしい」と激励しました。



委嘱状を手にする及川さん(左)と加藤さん(右)

希 愛鳥週間作品コンクール環境大臣賞受賞報告 希少な鳥の保護を訴える

4月20日(月) 市役所

令和元年度の愛鳥週間ポスターコンクールで、古川小学校6年生の小笠原唯さんが、小学校高学年の部で環境大臣賞を受賞した喜びを都竹市長に報告しました。

作品は、昨年の夏休みに家族で乗鞍岳畳平に出かけた時に見つけた、国特別天然記念物のライチョウの親子を丁寧に描き、希少な鳥の保護を訴えています。

小笠原さんは20日に市役所を訪れ、都竹市長に受賞の喜びを報告しました。

都竹市長は「素晴らしい快挙」と受賞をたたえ、小笠原さんは「ライチョウが貴重な鳥だということがたくさんの人に伝われば嬉しい」と話しました。



ポスターを手にする小笠原さん

百 沖村春子さん百歳褒賞 歳おめでとうございます

4月3日(金) 古川町袈裟丸

古川町袈裟丸の沖村春さんが百歳を迎えられました。これに合わせ、市民福祉部の藤井弘史部長が自宅を訪問し、花束や褒賞金を沖村さんに手渡しました。

沖村さんは、話をすることや楽しいことが好きだそうです。現在は孫家族と同居し、4世代8人で暮らしています。この日は、家族全員が沖村さんの百歳をお祝いし、家族が描いてくれたという沖村さんの似顔絵の横でにぎやかに記念撮影をしました。

藤井部長が「百歳おめでとうございます。これからもお元気でいてください」とお祝いの言葉をかけると、沖村さんは「ありがとうございます」と笑顔で応えていました。



沖村さんを囲んで記念撮影